

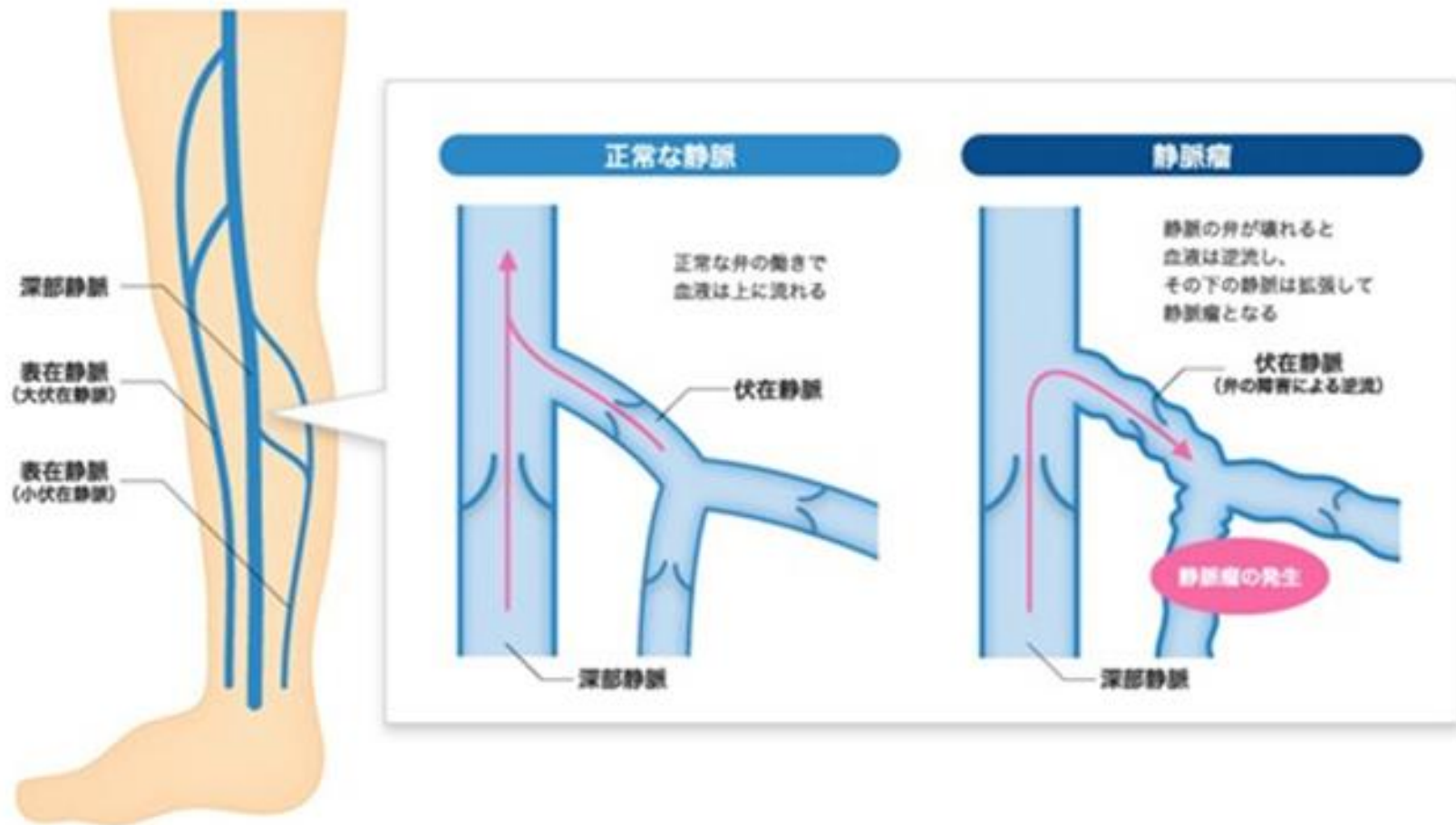
下肢静脈瘤の診断と治療

診療時間 毎週木曜日AM 担当 松下 恭

こんな症状で困っていませんか？



下肢静脈瘤は静脈の逆流によって起きる病気です



下肢静脈瘤を生じる原因

- 立ち仕事
- 妊娠
- 性差（女性）
- 年齢

などがありますが、一番の要因は静脈の壁が弱い体質です。

（片親が静脈瘤で40%, 両親ともで90%程度発現すると言われています）

下肢静脈瘤による主な症状

- むくみ
- 下肢倦怠感
- 痛み
- かゆみ
- 皮膚炎
- 足の痙攣（こむら返り）
- 整容的問題 など

検査

- 下肢静脈瘤のほとんどは超音波検査で診断がつきます
(検査中の痛みはほとんどありません)
- 必要に応じてCT検査も行います



治療

- レーザー治療
- グルー治療（血管塞栓術）
- 瘤切除術
- 硬化療法

など症状に応じた治療を行います。

気になる方は
まずは是非一度ご相談を！

診療時間 毎週木曜日AM、第二土曜日AM 担当 松下 恭

下肢静脈瘤 とは

足の血管、その中でも静脈が膨らんで、こぶの様に見える病気です。

原因は体質などにもよりますが、70歳以上の方には程度の差こそあれ、70%以上もあるととても多い病気です。静脈の血液が足にたまって、血管がその圧力に負けて膨らむことが原因ですが、人間が二足立ち歩行を始めたときから始まっており、紀元前数千年前のピラミットの時代からも静脈瘤がある足のレリーフなどがみつかっています。また犬や馬などの動物にも見られます。

また遺伝的な素因もあり、片親に静脈瘤があると40%、両親共にあると90%程度発現するといわれています。

下肢静脈 の血流

血圧測定の際に血圧は120から130mmHg以下が良いなどと言われていますが、これは動脈の血圧で、静脈の圧力はその約1/10の10-15mmHg程度です。静脈血は動脈の圧力で毛細血管を通過した残りの圧力で流れていきます。

血圧は一般的にHg,すなわち水銀を使用して測定していますが、水銀の比重は水の13.6倍ですので、水の重さに換算すると約20cmH₂Oとなります。つまり静脈の圧力は水（血液）を20cm程度しか持ち上げる力しかないため、立っている状態だと静脈の圧力だけでは血液は心臓に戻って行きません。

しかし、静脈の壁は薄く、また筋肉内を走行する静脈も多いため、足を動かすことによって筋肉に圧迫されたり、呼吸で吸い上げられたりして徐々に心臓に戻って行きます。

また静脈には弁があり、一度上に上がった血液は逆流しないしくみになっています。

なぜ血管が膨らんでいくのでしょうか？

元々血管が膨らみやすい体質も静脈瘤の原因になりますが、立ち仕事、座り仕事の方や、経産婦の方は妊娠による腹圧の増加によって足の静脈の圧力が上がり、静脈が拡張し、またそのために静脈弁の働きが悪くなり、さらに逆流が増えていく悪循環が生じて徐々に血管がこぶの様に膨らんでいきます。また、体質的に皮膚の表面の血管が弱い場合にはくもの巣状に皮膚に近い血管のみが拡張して目立ってくる場合もあります。

結果的に足に血液が常に貯まっている状態になりますので、足が重い、だるい、むくむ、また筋肉の血液の循環が悪くなって、足がつる、こむら返りがある、また皮膚の血液の循環が悪くなると色が黒っぽくなったり、皮膚に傷がついてなかなか治りづらい皮膚潰瘍を生じる場合があります。

中には、足の中心を走る太い静脈の血栓（深部静脈血栓症）があるために表面の血流が増えて静脈瘤が生じる場合もあります。超音波検査などでこの鑑別も必要になります。

● どのような場合に治療が必要になるのでしょうか？

基本的に静脈瘤は悪性の病気ではないので放置して直接命に関わることはありません。

しかし、先程のような足が重い、だるい、むくむ、足がつる、こむら返りがある、皮膚が変色してくるなどの症状が出るようでしたら治療を受けた方がいいと考えています。

● 治療にあたってどのような検査が必要ですか？

一番大事なものは、超音波による検査です。足にゼリーを塗って、血管の状態を確認しますが、約15分程度かかります。痛みはない検査です。

これによって、治療の必要性があるか、治療が可能かどうか、またどのような治療が向いているのかがはっきりとします。

また必要に応じてCT検査を行って、足の表面の静脈がどのようなになっているのか、分かりやすく見える様にしています。

治療にはどのような方法がありますか？

ただ症状を取るだけでしたら、足を圧迫する弾性ストッキングを履くのがもっとも手早い方法です。

静脈の圧力より高い圧力のストッキングを履くことによって、足に静脈血が貯まるのを防ぎます。市販でも足を圧迫するタイプのストッキングが売られていますが、これは安全のために少し弱めに作られています。ストッキングを着用するのであれば医療用の適正な圧力があるものをお勧めします。

また、逆に、弾性ストッキングを履いてみて症状が改善するようであれば、手術を受けると症状が取れる可能性が高くなります。

でも、ずっとストッキングを履き続けるのはなかなか大変ですよ

静脈瘤にもいろいろなタイプがありますが、血液が逆流して膨らんだ静脈の血流をなくすことが、基本的な治療法になります。

足の中心には深部静脈という太い静脈がありますが、この血管が足の静脈血流の8-9割を担っています。また静脈は動脈に比べて血管がたくさんある分、流れが分散されていますので、この部分の血流がなくなっても、他の血管から血液は流れますので問題はありません。

具体的にはどのような方法があるのですか？

以前は逆流している静脈を引き抜いて除去するストリッピング手術を行なっていましたが、近年は血管内にレーザーを照射して血管を収縮させるレーザー治療や、血管内に塞栓物（医療用生体のり）を注入して閉塞する塞栓療法を行なっています。また拡張した静脈瘤や、皮膚表面にある蜘蛛の巣状静脈瘤には薬を血管内に注入して血液を流れなくする硬化療法を行います。

いずれも健康保険が適用されています。その方の静脈瘤のタイプによってある程度治療法は決まってきますが、生活スタイルやご希望などにより、治療方法を選ぶことも可能です。

下肢静脈瘤は基本的に良性の疾患で、また進行は緩徐なので放置しがちです。これを機会に是非一度専門医療機関を受診されることをお勧めいたします。